

蒲生干潟の地形調査⑭

■右岸側の堆積が進み、狭まる河口付近

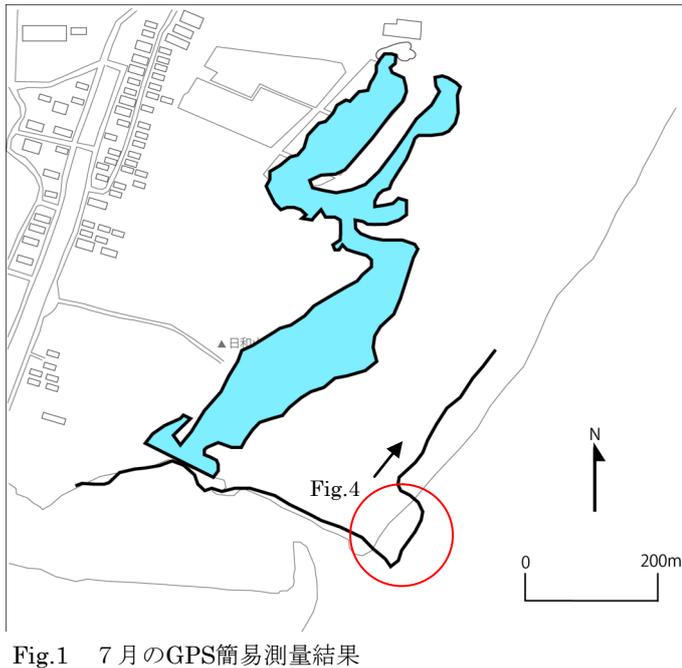


Fig.1 7月のGPS簡易測量結果



Fig.2 海岸線付近に出来た侵食による崖 南側より撮影



Fig.3 潟湖の空中撮影写真 南側より撮影



Fig.4 河口付近の空中撮影写真 西側より撮影

調査日 2016年7月5日(火) 9:30~11:30 この日の干潮時刻は10:13であり干潮(潮位5cm)に向かっている時間帯に調査を行った。Fig.1は汀線のGPSによる簡易測量の結果であり図中の矢印はFig.2の撮影場所と撮影方向である。護岸ブロック付近の海岸線はFig.1の○で囲んだところの結果からもわかるように大きく東側に堆積していた。また、Fig.2のように海岸線では侵食されてできた崖が出来ていた。

Fig.3, Fig.4はドローンによる潟湖及び河口付近の空中撮影であり、撮影は120m上空からおこなった。Fig.4を見ると右岸側の堆積がすすんでおり河口付近が狭くなっていることが確認出来る。また、調査時間帯が干潮時間帯だったこともあり、河口付近は大きな州があらわれていた。

(中田 晋)